



Mitsui V-Net

Mitsui Volunteer Network Center

三井ボランティアネットワーク事業団

ニュースレター Vol.51

2014年1月1日発行

新春のご挨拶

三井ボランティアネットワーク事業団
理事長 團野 耕一



あけましておめでとうございます。

昨年6月20日の三井ボランティアネットワーク事業団理事会におきまして、飯尾紀直前理事長よりバトンを受け、理事長に就任いたしました。

甚だ微力ではありますが、皆様のご協力を得て、事業団の発展に尽力していく所存でございます。

本事業団は、わが国の少子化・高齢化が著しく進捗し、未曾有の高齢社会を迎える時代に、日本社会が活力を保ち続け、国民生活を維持・向上させていくためには、高齢者が社会活動に積極的に参加し、活躍できる環境を創り出すことが急務との認識に基づき、平成8年に創設されて以来、昨年10月で18年目を迎えました。

「シニアの生き甲斐づくり支援」・「三井グループの社会貢献活動」を目指し、三井グループ運営会員各社（現行24社）のOBを中心としたボランティア登録会員は、ニュースレターの定期発刊及びホームページの全面改訂によって、約1,400名となり、前年比大幅に増加しています。また、ボランティア活動人数においても年々活発となり、①国際交流、②環境保全、③医療・福祉、④文化・教育の4分野において、延べ8,800名の方がさまざまなボランティア活動を行っています。

東京本部では国際交流の分野において、部会が中心となり各大学で留学生との一対一交流、マス交流が活発に行われています。関西支部では、一昨年からは開始されました関西サロンで会員同士の情報交換を行い、それぞれの活動に生かしています。中国支部では、5年にわたる平和記念公園の清掃活動に対し広島市より「環境美化永年活動5年表彰」を受賞いたしました。

今後ともボランティア活動の内容の向上及び活動頻度アップに努め、三井V-Netの将来への発展並びに三井グループの社会貢献活動の一端を担い三井ブランドの向上を目指し努力してまいります。

平成25年度の取り組みにつきましては、①三井V-Net運営体制の見直し②新規ボランティア登録会員の拡大③運営会員会社の拡大があります。

まず、三井V-Net運営体制の見直しにつきましては、平成22年度に2、3年を目途に経過的措置として年会費の減額、事務局業務の合理化、組織の改編を行いました。以後3年が経過し運営体制を見直す時期がきており、常任運営委員会、運営委員会で検討してまいります。

次にボランティア登録会員の拡大ですが、ホームページの改訂等により現役ならびに60歳台の会員を取り込むことができ、会員数は平成22年度より年々増加しております。今年度は、昨年引き続き運営会員会社のOB会との繋がりを強めるとともに、会員による勧誘活動を特に強めてまいります。

運営会員会社の拡大につきましては、昨年4月より月曜会メンバー会社の三井製糖に入会いただきましたことをご報告させていただきます。更に会員会社を増やすために、二木会・月曜会メンバー会社の未加入会社及び休会会社への新規加入あるいは再加入の勧誘対策に取り組んでまいります。

平成23年3月11日に起きた東日本大震災により、日本人のボランティア活動に関する意識は大きく高まりました。それはまさに平成7年の阪神・淡路大震災をきっかけに設立された本事業団の志と同じであります。本事業団としては、この意識の高まりをしっかりと受け止める役割を果たし、本年も充実したボランティア活動を展開してまいりたいと思います。引き続き皆様のご協力をよろしくお願い申し上げます。

最後に、皆様のますますのご発展をお祈り申し上げ、新年の挨拶とさせていただきます。



本部（東京）

留学生との交流を通じて

手島 幹雄（東レOB）



三井V-Netの東大国際センター部会に登録し、東大の留学生と交流する機会をいただいています。2012年4月から2013年の8月までの期間にお付き合いしたのは、イギリス人のマーシャル・クレイグさん。スコットランド出身のオックスフォード大学院生で、16世紀後半の日本・韓国・中国の関係を研究している人です。奥様がロンドンで仕事をしている韓国人なので、韓国語ができるだけでなく、中国語も使えるということでした。

彼は東大駒場キャンパス内の宿泊施設に滞在していたため、駒場キャンパス内の学生食堂を利用し、週に1度日本語でさまざまな話題について話し合うという形での交流をしました。その中で継続して行なったのは、日本語のテキストを音読してもらい、その内容について話すというものです。テキストは岩波新書の『秀吉の朝鮮侵略と民衆』で、その本の著者である北島万次氏の指導も受けていたクレイグさんからの要望によるものでした。おかげで私もその時代の歴史を勉強することができました。

クレイグさんは大学での勉強だけではなくさまざまな活動をしていましたが、NPO法人「コモンビート」でのミュージカル出演もその一つでした。公演は帰国する数日前というあわただしさの中、2千人を収容する昭和女子大の人見記念講堂を満席にするほどの盛況だったことは、忘れられない思い出になったことでしょう。イギリスに帰国してからもフェイスブックでつながり、私の誕生日には日本語でていねいなメッセージを送ってくれました。



ミュージカル出演のクレイグさん

この活動を通じて、以前には中国人と韓国人、現在はタイ人といった具合に、いろいろな国からの将来を担う若者たちと交流ができています。彼らの考え方の一端にふれながら、外から日本がどう見えるのかを知る貴重な経験ともなります。いながらにして世界に触れる機会として、これからも楽しく活動を続けていくつもりです。

私の留学生との楽しい交流

大格 登（東洋エンジニアリングOB）

三井V-Netの会員登録をしたのは2年間のヨルダンでのJICAシニア海外ボランティア活動を終えて帰国した翌年の2008年6月でしたが、7月には中国人のチウ・スー君を紹介されました。筆者と交流の留学生（東大柏部会）彼は2年間のドイツ留学経験があり、日本語習得には関心なく、10年3月修士号を得て帰国するまで、月一回程度の英語での交流でした。一度佐倉の国立歴史民俗博物館に案内し、家内も一緒に会食したこと以外大したお世話もなかったのですが、律儀な青年で、中国開発銀行のギリシャ支店勤務中の現在も、時々メールで近況を知らせてくれます。



チウ君の帰国直後の2010年4月には博士課程のシー・ウェイさんを紹介され、現在も交流中です。11年11月にはシーさんと同じ研究室のスー・タオ君が、13年4月には、香港から来たゲー・ジエさん、6月には修士課程2年のリユー・シャオシャオさんも加わり、目下、男女4人の中国人留学生と楽しく交流中です。但し、ゲーさんの主たる交流相手は柏部会の大竹晋様で、私は副の立場。リユーさんは日本語に堪能で、来春就職する某総合研究所での業務を念頭に幅広い情報入手が主な関心事。ほぼ週一回キャンパスに出向き、日本語レベルに応じて4人を2, 1, 1に分け、10時頃から、みんなでの昼食を挟んで、午後3時頃まで交流します。

交流の狙いは大別して下記の2つです。

1. 当部会前世話人の井口宏様が常々仰っているように、「留学生に日本と日本人を好きになってもらう」、そのためのお世話をする事。
2. 留学生には、いずれ母国で、または日本で、視野の広いリーダーになってもらうべく、毎回A3版大で10枚程度の新聞記事の切抜き等を用意して勉強会を開催し、日、米、中、アジア、中東、その他世界の各地で何が起きているか、それは何故かなどを一緒に考える機会とし、又、自分自身のボケ防止にも役立てること。

何れにせよ、自分の息子や娘に対する気持ちで、「交流」を楽しんでおります。



大格さんの勉強会に参加して

劉 瀟瀟

(東京大学新領域創成科学研究科修士課程2年)



大格さんの勉強会への参加は2013年の6月からで、まだ4ヶ月余ですが、この間色々のことを勉強でき、毎週参加するのが楽しみになっています。

大格さんと知り合うきっかけは、友達からの紹介です。勉強会で使われる新聞記事の内容が豊富であるのみならず、大格さん自身にも沢山海外経験があり、人柄がとても面白いボランティアだと聞いた私は、是非参加したいと申込みました。

大格さんは突然きた私を優しく受け入れて下さいました。毎週数十時間をかけて精選された新聞記事は内容が幅広く面白いです。勉強会を通して、日本語は無論、日本の時事・文化や世界の出来事も色々勉強でき、非常に充実しています。自分の経験や見聞も話していただき、私達にもよい手本になります。参加して本当によかったと思っています。

初めてのホームビジット体験！

辻本 敦子 (商船三井OG)



三井V-Netに入会して半年。幸運にもこんなに早く、千葉大留学生のホームビジットを受け入れるチャンスをいただきました。今年台風も多く、当日の天気がとても気になっていましたが、見事な日本晴れ。今回はタイから二人の男子留学生エム君とオイ君を受け入れました。

私もタイは主人の転勤に伴い5年間駐在していたので、第二?の故郷と思えるほどタイには親近感を感じる国なので、今回はとても楽しみでした。「タイ語も久々で通じるかな!」と少々不安に思っていましたが・・・最初の「サワディー カー!」以外はほとんど英語で、全く心配する必要がありませんでした。

まずはお茶でも飲みながら、ゆっくり折り紙でも作ったりしよう・・・と思っていましたが、Goo〜〜とお腹が鳴る音が聞こえて急遽、昼食の準備開始!!料理を作っている間に、ちょっと暇つぶし……のつもりで将棋セットを見せたら、大興奮。写真を撮って興味津々でした。「本将棋」は説明が難しいので、「はさみ将棋」を教えてあげると、ゲーム好きの若者はすぐにルールを覚えて、夢中になって遊んでいました。

彼らは日本に来て3週間たっていましたが、たこ焼き、もんじゃ、寿司、天ぷら、唐揚げ、うどん、ラーメンetc.ほ

とんど食べまくってました。バンコクにいるときも週に1〜2度は日本料理屋さんに行くというくらい、和食が流行っているようで、好き嫌いもなし。ということで、最初は「食べたことがない!!」という「冷やしうどん」からスタート。納豆も特別トッピングに加えてあげましたが、全く問題なくペロリと平らげました。

次にパフォーマンスも楽しめるお好み焼きは喜んでくれるかな?と思ったら、一人の学生は「家にたこ焼き器もホットプレートもあるから、時々作ります!」と言われて、びっくり。お茶も「タイ人は中国茶が好きだろう・・・」と用意したら、「今、タイ人の若者はほとんどグリーンティーしか飲みません」と言われて、またまたびっくり。20年前に駐在していた頃とは、すっかり変わっているようでした。

昼食後は、軽く散歩でも……と稲毛浅間神社をお参り。ちょうど七五三のお参りに来ている人が多く、着物を着た可愛い子供たちと写真を撮ったりして、大喜びでした。

次に訪れたのは神社の隣にある愛新覚羅溥儀(中国ラストエンペラー、溥儀の弟)が新婚時代に住んだ家。ここはレトロな匂いがするようで、建物、庭、植木に「日本」を感じた様子。その後、旧神谷伝兵衛稲毛別荘をゆっくり散歩しました。

「7時間も間がもつかな??」との心配をよそに、あっという間に6時間が経ちお別れの時間。最後に私のお気に入りスポット「幕張のサンセット」で日本の夕日を見ながら別れを惜しみました。

古典芸能鑑賞教室

廣瀬 邦彦 (三井化学OB)

駒澤大学部会の重要イベントの一つである、古典芸能鑑賞教室の世話役を引き受けて3年になります。その間、東京大学部会や他の部会にも参加を呼びかけ、日本の代表的な古典芸能である歌舞伎、能狂言、文楽を多くの留学生に紹介できたことは、大きな喜びです。



この3年間の留学生の参加人数は平成23年16名、平成24年18名、平成25年14名で、延べ48名となり、また、出身国も中国、韓国、台湾、香港、オーストラリア、メキシコ、タイ、フランス、ポーランドと多岐にわたっています。

歌舞伎と文楽は国立劇場が、能狂言は国立能楽堂が主催する鑑賞教室で、初心者にわかりやすく紹介することを目的にしており、役者が舞台上で“身振り手振り”や“せりふ回し”を演技したり、大道具、小道具、衣装を披露したりしながら、具体的に説明をするプログラムが組まれていて



人と人のまんなかに。

大変好評のようです。

上演された演目は

平成23年 歌舞伎は、義経千本桜より 「渡海屋の場」
「大物浦の場」

能狂言は、狂言「黒濟」・能「生田敦盛」

文楽は、曾根崎心中より「生玉社前の段」
「天満屋の段」「天神森の段」

平成24年 歌舞伎は、毛抜きより「小野春道館の場」

能狂言は、狂言「包丁髯」・能「龍田」

文楽は、「鞠猿」恋女房染分手綱より「道中
双六の段」「重の井子別れの段」

平成25年は 歌舞伎は、芦屋道満大内鑑 - 葛の葉-

能狂言は、狂言「鬼瓦」・能「実盛」

文楽は、「団子売り」菅原伝授手習鑑より
「寺子屋の段」

とそれぞれの分野の代表的な演目が用意され、歌舞伎、能狂言、文楽という日本の古典芸能の世界を楽しむことが出来たのではないかと思います。

また観劇の後の、食事やお茶をしながらの“おしゃべり”は、もう一つの楽しい交流となっています。



これからも、より多くの留学生に日本の伝統芸能を紹介できるように、他の部会に参加を呼びかけていきたいと思っています。

留学生からの感謝状

伊藤 栄彦 (三井物産OB)

2013年8月に終了した横浜国大留学生Ms. Helen Barclayさん (Joy 一年留学生、英国Nottingham Trent University 3年生) よりお世話になりました皆様にもよろしくと下記感謝状を頂きました。紙面の関係で和訳した文書を披露させていただきます。ヘレンさんとの一対一交流は平均週2回の英語による喫茶店での勉強、すし、てんぷら、しゃぶしゃぶ等その他日本食でのお付き合いや関東近郊での小旅行等で日本の自然美や日本の文化にも触れてもらう等、ヘレンさんの要望も確認しながら幅広い交流を行って来ました。思い起こせば



筆者(右)とヘレンさん

大変真面目な生徒で、真摯に各種勉強にも取り組まれました。限られた時間の中で私のできる範囲ではありますが精一杯交流に尽力したつもりです。毎年、新たな留学生が世界各地から横浜国大に入学して来ますが、私も三井V-Netの会員の一人として、会員の皆様と共に、これからも留学生のサポートを一人でも多くできればと思っています。

(感謝状 意識)

私の日本滞在中、伊藤さんは信じられない位に助けてくれました。私の日本語コースの全ての教科に渡って欠点を教えてくれるのみならず、宿題、試験の結果、課外の漢字練習教科書(300頁)についても全てその成績につき色々アドバイスを下さり、また日本文化の諸相についても詳しく説明をして貰いました。更にこの一年間(2012年9月~2013年8月)関東地区で色々な場所(スカイツリー、2階建てオープン観光バス、浅草、皇居、美術館、歴史博物館等々)を案内してくれ、鎌倉では、銅製の大仏坐像、クリスマスにかけて旅した箱根では、ベネチアガラス美術館、温泉風呂(ワイン・酒・紅茶等々各種風呂)など忘れ得ない思い出も沢山つくって頂きました。

三井V-Netの一対一交流制度が私の日本語知識の改善やら日本文化への理解の更なる深化に大いに役立ったように、この制度は将来のどんな留学生にも、大いに推薦したい制度であると私は確信しております。

敬具

ヘレン

平成25年度

秋の留学生 “横浜Welcome Walk”

伊藤 明彦 (三井住友海上OB)

横浜国大大会では新留学生を対象に横浜Welcome-Walkを実施した。春は途中降雨のため行程の終盤近くで中止したが、今回は台風25号と26号の間隙を縫った10月12日、30度を越す秋にしては記録的な真夏日の好天下で無事実施できた。

この行事は来日直後の留学生に幕末の開港から現在までの横浜の歴史を示すいくつかの歴史スポットを案内する恒例行事である。

今回は留学生26名、大学教員、部会員等21名総勢47



2013.10.12 横浜大棧橋にて



人と人のまんなかに。

名がJR桜木町駅に集合。高さ296mのMM21ランドマークタワーを背景に記念撮影の後、出発。帆船日本丸メモリアルパークを経て、汽車道を抜け、横浜音祭りのジャズ演奏を眺めながら、ビール祭りで賑わう赤レンガ倉庫へ。ひと休み後、開港の道を通りお目当ての横浜開港資料館へ。

そこでは「関東大震災九十周年・被災者が語る関東大震災」を特別展示中。当時横浜でおよそ26,000人の犠牲者を出した大災害をなんとか生き抜いた人々が残した記録や写真、エピソードを紹介しながら再起までの過程を展示していた。留学生達は関内地区の大震災前と後の写真に釘付けになり、特別な思いをもって見学したようである。資料館を後にして日米修好通商条約締結の地（開港広場）、大棧橋、山下公園を散策。おりしも山下公園ではワールドフェスタが開催中で、曲芸や世界の屋台が留学生の目に留まり、ここでWalkを終了。中華街入り口の朝陽門を臨む氷川丸前で解散とした。留学生にとって思い出のwalking tourになったようで、世話人としては無事終了できて安堵した。

東大病院でのボランティア10年を振り返って

澤田 明広（三越伊勢丹OB）



61歳で三越を定年退職し遅まきながら今後について考えていた時、三井V-Netよりボランティア募集等の案内の小冊子が届きその中に東大病院でのボランティア活動の事が掲載されていました。

2003年の春のことでした。早速申し込みをし、その年の7月に東大病院で講習を受け、その後見習い期間を経て採用されて今日に至っています。

病院でのボランティアが何たるかも分からず参加したため初めは戸惑うことばかりでした。初めて病院へいらっしゃる方々のご案内、再来機での受付のお手伝い、車椅子の介助、視覚障害者の介助、エレベーターの介助、診療科・院内施設のご案内、小児病棟から院内学級への送り迎え等多岐にわたっています。

そして初めて活動を行った際まず驚いたのは、来院する方が余りにも多いことでした。多い日には来院される方が1日に4,000名を超える日があり、つくづく我が身の健康を有り難く思いながら、健康に不安のある方々の支えに少しでもなれたらと活動を続けています。

ボランティア活動が初めての私が10年間続けてこれ

たのは、無理をせず一か月に2回、一日3時間の最低活動基準を目安として楽しく元気に活動してきたのが結果的に良かったと思っています。

今は男声コーラスに所属し特別養護老人ホーム・各種養護施設・病院・教会・幼稚園・刑務所などをボランティアでの演奏活動、また尾瀬保護財団のボランティアを行っています。しかしこの10年私自身のことでいうと5年半前に脳梗塞を患い、母が96歳で他界、娘が結婚など色々なことがありましたが、今では生活の一部になりつつあるボランティア活動を、自分自身のためにも今一度初心に戻り、今後も続けさせて頂くつもりです。

ボランティアに関心のある方は堅苦しく考えず、気楽に挑戦してみたいかがでしょうか。

新しい人生が開けるかもしれません。

「クリーンアップ鎌倉2013秋」に参加して

本部事務局 稲葉 常春

2013年9月23日(祝日)に「クリーンアップ鎌倉2013」の秋の部としてビーチクリーンアップ活動が由比ヶ浜海岸で開催され、三井V-Netからは、東芝エレベータ現役社員9名、新日本空調現役社員並びにそのご家族6名、湘南倶楽部会員5名に事務局員1名の総勢21名が参加しました。

午前9時45分、受付には弊事業団からの参加メンバー以外にも多くの方が並び、順次白いポリ袋(燃えるごみ)と青いポリ袋(燃えないごみ)を貰い受け、海岸での清掃活動を行った。

由比ヶ浜海岸では多くのサーファーで賑わっていたが、広い砂浜は海藻が打ち上げられていた以外は比較的きれいで大きなごみもなく、主にはガラス片やビニール、紙、紐等を拾い集めた。

時間的制約もあり、由比ヶ浜海岸の端から端までは清掃することはできないが、多くのボランティアの方の参加で、海岸の美化には少なからず貢献できたと思っています。

東芝エレベータの皆様は毎年GW最終日に開催される「春の部」には多数参加されていますが「秋の部」へは今回が初参加となりました。

また、新日本空調から参加のご家族は、開催の都度参



加をいただいております。今回も可愛い赤ちゃんを含め、親子三代で参加していただきました。

夏の名残りとお秋



の気配が混在する由比ヶ浜海岸で、目の前に大きく広がる海を眺めながら、さわやかなひとときを過ごすことができました。参加いただきました皆様ありがとうございました。

関西支部（大阪）

神戸大学留学生との交流

鶴野 一成（サントリーOB）



トリストラン君

三井V-Netを通じて合計3人の神戸大学留学生を紹介いただきました。

2012年の2月にフランスからのトリストラン君、22歳と会いました。実に若者らしい素直な青年でした。フランス人だからきっと飲食に積極的だろうと信じ、会ったその日に三宮のガード下と十三の極安居酒屋に案内しました。予想通り相当大阪ディープな、例えばクジラの「コロ」なども実に美味しいと言い、お酒も強い青年でした。日本が好きで、数年前には近江(?)あたりで半年ほどアルバイトしたそうです。春には家族を呼び寄せ、宮島とか案内したということでした。ワインを飲む集まりにも2回ほどジョインしてもらいましたが、昔の青年たちといろいろ話をしていました。きっと日本にはいい思い出を持って帰国されたのではないのでしょうか。



左ジェローム君

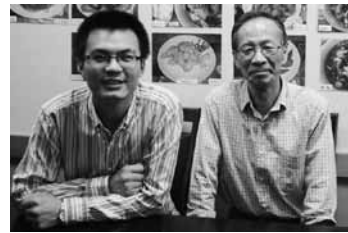
右ガドン君

現在はナイジェリアからのガドン君30歳とガーナからのジェローム君25歳とお会いしています。お二人とも博士課程にいて、私はそれだけで尊敬してしまうのですが、謙虚で正直で物静かな本当に素晴らしい学生さんです。私はよく知らない国なので、逆に興味津々、お国の話を聞きまくってます。二人は同じ学生寮に居住して仲良しなのですが、生活スタイルはかなり違いますので、ある時は一緒に、ある時は別々に会うことにしています。例えばガドン君は今までのナイジェリア生活ではお酒に接することがなかったということで、お酒は飲まず、食べられる料理も限られているようです。そういうこともあって奈良の明日香に案内しました。ここが日本の原点だからと乏しい知識をひ

けらかし、大丈夫かなと思ったのですが、三輪そうめんとわらびごはんを紹介しました。これは美味しいと完食でした。ガーナのジェローム君はお酒も食べ物も、ガーナチョコレート(笑)も、なんでもいけるという違いがあります。だからジェローム君には比較的若い女性が参加するワイン会に来てもらったりしています。二人ともまだしばらくは日本にいるため、これからが実に楽しみです。

恩師澤田先生

劉 寧（同志社大学中国留学生）



同志社大学大学院の劉寧と申します。澤田先生と一对一の国際交流、2012年の6月4日から始まり、もうすでに20回以上の交流勉強会になりました。

最初は澤田さんと呼びましたが、どんどん澤田先生と呼ぶようになりました。

私は日本の経済発展、特に戦後日本社会の発展に興味を持っています。最初交流のテーマは主に日本の文化、経済発展に関することです。澤田先生は日本の経済発展、社会現象などを冷静に見て、生の日本社会の姿を教えてくださいました。勉強会を開催することを通して、大変勉強になりました。

そして2012年10月から就活の準備を始めました。日本の就活は中国の就活と完全に異なり、就職活動の期間が長く、準備することも多いと感じました。

この就活期間中は、通常日本語、日本文化の勉強を差し置いて、澤田先生に就活についての相談や意見を求めました。最初業界分析から最後の最終面接まで、たくさんのアドバイスをいただきました。特に、就職希望理由書の作成や面接への対応については、澤田先生のアドバイスが、非常に役に立ちました。私の就活は順調とは言えません。何社かの選考で落ち、最後にローソンの内定が決まりました。この就活の半年で、常に不安を感じながら結果を待ち、結果が出次第、次の面接への対応を考え澤田先生にアドバイスを戴きました。

内定先が決まった直後、評判のフランス料理店でお祝いしてくださいました。就活を振り返って、澤田先生の助けがないと、なかなか合格をもらえなかったと思います。

澤田先生から習ったのは、単に日本語や日本社会の知識だけではなく、大切な奉仕の精神です。日本でさまざまなボランティアの姿をよく見かけます。ボランティアがいないと、今のような日本の住みやすい社会が成り立たないと思います。

日本に来てから、東北震災ボランティア、京都マラソン



人と人のまんなかに。

ボランティアなどさまざまなボランティア活動に参加しました。その中で特に留学生が活動する難しさを感じましたので、留学生にアドバイスを送る本を書くことにしました。執筆した時に、澤田先生からの助けを受け、おかげ様で、2013年9月に一部の内容を「日本留学资讯大全2013—2014」で出版しました。

2013年4月京都府名誉友好大使の選考を受けました。選考は厳しくて、書類選考、一次面接、二次面接まででありました。また就職活動と同様に、希望理由書、面接対応などについて、澤田先生に相談、アドバイスを受けました。澤田先生のおかげで、2013年5月、ほかの14名の留学生たちと一緒に京都名誉友好大使に任命されました。今後、異文化交流、京都府の国際化推進などの面で自分なりの役割を果たしたいと思っています。

学生時代もあと3ヶ月残っていますが、将来社会人になっても、人生の大先輩、恩師澤田先生と楽しい勉強会を続けたいと思っています。

大阪歴史博物館紹介

山田 登喜男 (阪急電鉄OB)



大阪歴史博物館でのボランティア活動は定年一年前から始めて早三年が経ちました。活動範囲は大きく分けて遺跡(博物館地下にある古代遺跡の案内役など)とハンズオン(着物を着せてあげる役、「大宮人になってみよう」の衣装を着る体験のお手伝い、文楽人形を使ったりする体験のお手伝いなど)ならびにスタンプラリーがあり、博物館と市民をつなぐ役をしています。

私が主に担当しているスタンプラリーは主に子供を対象としていて、スタンプシートには10階、9階、7階の各階2問ずつの設問が書いてあり、展示を見ながら解答していきます。たとえば「道頓堀の芝居小屋を復元した模型がありますが、なんとという芝居小屋を復元したものでしょうか?」解答は「角の芝居」で、それぞれの設問ごとにブース(各階2か所ずつ)があり、そこで答え合わせをします。正解なら、それぞれのブースのスタンプを押します。全部スタンプがもらえたら、記念品が貰えます。クイズ形式で楽しみながら展示を見てもらうきっかけを与える事を目的としています。そのため「正解」ではなく「考え・興味を持ってもらうこと」を重視しています。参加者と会話しながらヒントを与え理解を深めてもらっています。

この施設には年間20万人が訪れます。小学校高学年から中学生・高校生の団体がほとんどを占めます。一般の来館者には外国人の方もおり特に韓国、台湾などアジア

系の人が目立ちます。言葉が通じない時には身振り手振りでコミュニケーションを図っています。10階からの大阪城は見ごたえがあり南には金剛山まで見えます。皆様も一度、古代から現代の歴史に触れに来て下さい。

「サントリーレディスオープンゴルフトーナメント2013」ボランティアデビュー

望月 幸次郎 (登録活動会員)

某自動車メーカー主催の1983年女子プロゴルフ選手権が9月2日～4日、花屋敷ゴルフクラブよかわコースで開催されました。優勝は吉川なよ子さん、準優勝は樋口久子さんでした。初めてゴルフ場でプロのトーナメントを見てから、その後はずっとテレビで観戦をしておりました。



今回、三井V-Net関西支部長のお知り合いの澤野井潤一様から、ゴルフボランティアのお話を頂きましたので、出場選手が良く見える固定ギャラリー誘導を選択しました。

6月14日、15日の何れも、ギャラリーの多い17番ホール地点前方のコース内の横断路で、プレーの進行の妨げにならないようギャラリーを誘導する業務内容でした。なにしろ初めてのボランティアデビューでしたが、澤野井様の友人から、ギャラリーの方が、トイレはどこ?今どの組が回ってるの?さくらちゃんの組はあと何番目?などの質問が想定されるので、Official Draw Sheetのチェック、コースMapの確認などを教えていただきました。ボランティア業務内容の奥深さがよくわかりました。

プレー中の天候は、14日曇天、15日雨天でしたが、ギャラリーのマナーがよく、人気選手は大軍団を引き連れてプレーしていました。

2日間ボランティア活動をさせていただき、不安で一杯だったのですが、皆様のおかげで有意義な経験をさせていただきました。2014年も是非参加したいと思っています。

また、「2013マイナビABC」ボランティアスタッフにも参加し、2013年は2回ゴルフボランティアを体験しました。

2013年大阪マラソン団体ボランティアに参加して

藤井 和正 (三井化学 現役)

2013年10月27日(日)、3回目を数える大阪マラソンのボランティアに参加させていただきましたので、その様子を報告します。ご存知のように本大会は大変な人気で、高



人と人のまんなかに。



倍率の抽選参加になっており、前職場の部下も応募して毎回落選しているほどです。

数日前までは台風27号と28号のダブル接近により大会の開催が若干危ぶまれていましたが、速度を上げて東にそれたことで朝から快晴、やや涼しいマラソンには程よい気温となりました。集合時間

である7時30分の15分ほど前に中之島公会堂前に行くと、たくさんの応援団とらしい学生と、大会ジャンパーを着たいくつかの集団が既に陣を張っていました。三井V-Netへ初参加のため顔が分からないので、それとらしい集団のリーダーハットをかぶった方に声をかけると誉田さんでした。

ボランティアの内容は8.8キロのチャレンジランの完走ランナーの首にフィニッシャータオルを掛けてあげる仕事です。なかなか色使いの綺麗なタオルで素晴らしい完走記念となりそうです。メンバーの皆さんは手馴れた要領で、手渡ししやすいようにテーブルの上にタオルを並べ替えます。一通り準備が終わると談笑しながらその時を待ちます。

車いすマラソンのランナー二人が猛烈なスピードで目の前を通り過ぎると、しばらくしてチャレンジランのゴールが始まりました。最初はゆっくりでタオルを掛ける人をメンバーで奪い合う感じでしたが、ほどなく山のように完走者が押し寄せました。笑顔と「お疲れ様」の声かけを忘れないようにしながらも、ランナーが待ち行列にならないよう必死でタオルを掛け続けました。ランナーは一様に完走の喜びで笑顔に溢れてました。(中には疲労でそれどころでない人もいましたが)「ありがとう」と返してくるランナーが多く、こちらも幸せな気持ちになれました。一人の若い女性ランナーからは「ありがとう」の声と共にお菓子の詰め合わせ袋をもらってしまいました。

今回初めて三井V-Netに参加して思ったことは、ボランティアそのものの充実感とともに、メンバーの皆さんは穏やかで気さくな方ばかりで、日頃のストレスを忘れさせてもらえる半日でした。現役の三井化学の人たちにも是非三井V-Netに参加するように、これから勧めていきたいと思います。



二色の浜ビーチクリーンアップボランティアに参加して

坂田 貴俊 (三井住友建設 現役)



2013年9月28日、二色の浜海岸の清掃ボランティアに初めて参加させていただきました。今回は、会社のボランティア活動の一環として総勢26名で参加させていただきました。私はこれまでに、ボランティアなどの奉仕活動等に参加したことがなかったのでとても新鮮な気持ちで参加しました。

当日は、秋晴れのとても良い天気であり、絶好のクリーンアップ日和でした。私は今年の夏は海へ行っていなかったので、少しワクワクしながら海岸に向かうとボランティア参加者の多さに驚かされました。4つの企業、および団体が主催されているとのことで、410名以上の参加者が集まっており、とても賑やかな雰囲気でした。しかしながら、2週間程前に台風18号が上陸した影響なのか、浜辺には大量の流木などが打ち上げられていました。

いざ清掃活動が始まると一見きれいに見える海岸からも、プラスチックの破片やタバコの吸殻、花火の残骸などのたくさんの細かいごみ等が出てきました。30分程度の清掃活動でしたが、こんなにたくさんごみが落ちているのかと驚くほど、たくさんのごみが集まりました。今回は海水浴シーズン終了後や台風上陸後ということで、特にごみが多かったのかも知れません。その後、グループに分かれて集めたごみの種類を集計して今回の海岸清掃ボランティアは終了しました。

活動終了後には、きれいになった海岸を眺めながら昼食をいただきました。今回、初めて参加させていただきましたが、天候にも恵まれてとても気持ちの良い休日を過ごすことが出来ました。

活動終了後には、きれいになった海岸を眺めながら昼食をいただきました。今回、初めて参加させていただきましたが、天候にも恵まれてとても気持ちの良い休日を過ごすことが出来ました。



三井住友建設の皆さん

中国支部（広島）

ボランティア活動への参加について

西野 満夫（登録活動会員）

三井グループとは関係のない会社に勤務している私にとって、三井V-Netとの出会いはインターネットで「平和公園清掃」で検索したところからになります。毎日、平和公園前を通勤で通っており、いつかは清掃をしようと思っていましたので、すぐに登録しその月（平成25年4月）から活動を始めました。

「三井グループとは関係がないのに良いのかな」と思っていました。温かく迎えていただいたことに感謝しています。

平和公園の清掃は毎月第3日曜日なので、その日は約25年前から定期的に行っている献血と合わせて「清掃・献血の日」と決め、あらかじめスケジュールに入れています。

平和公園全体を清掃するのは無理なので、毎回範囲を決めて清掃をしています。公園内には様々な慰霊碑があり、毎回新しい発見をするとともに、楽しく清掃をしています。

事務局の方からは、平和公園の清掃以外にも様々な活動の案内をいただいています。現在はスケジュールの点から参加できていません。

平和公園の清掃は今後も継続的に行っていきますが、



前列右から2人目が筆者

それ以外の活動も時間をつくり、参加していきたいと考えています。何より、楽しく活動していくことが一番です。

そば栽培教室講座に参加して

徳永 久（東芝OB）

仕事の関係で山陰（島根県松江市）に5年半住んでいたせいか「出雲そば」が大好きです。

今年は「豊平どんぐり村（広島県北広島町）」の「そば道場」



へ入門しようかな？と思った矢先、ひろしま人と樹の会主催による「そば栽培教室講座」の案内を頂き、早速参加し

ました。

場所は県立もみのき森林公園（広島市廿日市市）の一角にある桜林（10a：約1,000㎡）に桜の育成（草刈や、施肥）を行う傍ら、桜と桜の間にそばを林間栽培する講座です。

講座期間は8/4（土）～11/10（日）の間に4回（①種蒔き、②刈取り、③脱穀、④そば作り・試食）の教室が開かれました。

初回：8/4（土）は地元小学生、先生方を含め総勢23名の方が参加され、今回の講座の講師でもあるそば研究者、佐々木章氏の指導のもと「バラ蒔き」方法での種蒔きをしました。蒔き方は横一列に並び、片手にそばの種を掴み、手を振り上げながら蒔く人、鳩に餌を与えるように手の平からパラパラと蒔く人、皆さん楽しそうに思い思いに蒔きました。蒔き終わったら種に土を被せるように表面をならして終了です。

午後からは、そばについての講座が開かれ、そばの歴史、種類、習性などの講義を受け、九州の宮崎県椎葉村で行われている伝統的な山焼き（焼畑）栽培の紹介がありました（平家の落人が伝えたとも言われているそうです）。

2回目は10/19（土）に開催され、種蒔き後76日目での収穫（刈取り）をしました。ソバ畑の周辺はススキの群落です。すっかり秋の様相、50～60cmに成長したそばを、親指側を下にして（逆手）持ちながら刈取って行きます。最適な収穫時期は、そばの実が7割程度黒くなった時期だそうです（味も大変良い時期）。この度は、ほんの少し早い（6割に近い）時期でしたが自然の恩恵（環境）を受けて育ったそばの茎を手を感じながらの収穫は、大変感動的な気持ちにさせられた体験でした。3週間後の試食会での出来栄が楽しみだな～！との余韻を残しての収穫祭でした。

この度の体験を通じてそばの知識を得る事も出来、大変有意義な講座に参加させて頂きました。



ワンペア日本語支援ボランティアについて

中国支部事務局 佐々木 邦晴

ひろしま国際センターの活動のひとつであるワンペア日本語支援ボランティアを平成25年6月から9月の4か月体験しました。最初、センターでの顔合わせから始まり、自己紹介後、学習者の意向により活動日程、内容、教材等を決め、センターのロビー広間を利用して活動しました。



週2回、月6～8回で一回当たり1時間半程度、同じフロアで3～4組のペアが各々コンタクトしていました。

私の相手はフィリピン国籍の20代の男性で既に5年位広島に在住しており、ある程度の会話ができ、ひらがな、カタカナは読み書きできる状況でした。もっと色々な語句を知りたい意向だったので、漢字も含め読み書きと会話の幅を広げていくことを目標とし、まず興味を持ってもらうため、漫画を教材に試してみました。しかし口語体のみで文言のため不適切と考え、教材をセンター備え付けの物語動物記の本に変えました。知らない語句を抽出し漢字を加え単語から想像できる状況を説明し言葉の意味、使い方について学んでもらいました。漢字も正確な書き順を教えるため電子辞書を片手に内容を明確に理解してもらうため英語(単語)に変換しながら教えました。人に教えることで新しい発見も多く自分自身も大いに勉強になります。しかし言語は短期間ではなかなか習得できるものではなく本人の努力が第一であり、根気よく続けること、いつまでも興味を持ち続けさせるムード作りが大事と感じました。今回は学習者の都合により時間が取れなくなり学習途上で中断となりましたが、少しでも学習者の力になればと思い、また機会があれば続けたいと思っています。

事務局便り

第7回エリザベス・サンダース・ホーム チャリティーコンサート

本部事務局



平成25年11月10日、弊事業団主催、湘南倶楽部共催の「第7回エリザベス・サンダース・ホームチャリティーコンサート」が大磯にて開催されました。

強風の中、雨も心配されましたが、皆さんぞくぞくと会場に詰めかけてくれました。聖ステパノ学園「海に見えるホール」から相模湾を一望する中、司会の高田佳代子さんの開会の案内に続き、事業団の團野理事長よりご来場いただいた皆様への御礼、挨拶の後、チャリティーにご賛同いただいたサクソ奏者の小林洋平氏、ピアニストの木原

健太郎氏並びに民谷香子氏率いる7名のストリングスメンバーを加えた9名による演奏会はスタートしました。前半は身近な唱歌、歌謡曲の世界、そして後半は映画音楽に始まり、今年世界遺産に登録された富士山を題材に小林氏が作曲した楽曲、ラストは東日本大震災で一本残った松の木を題材に小林氏が作曲した「いちばん大きな空へ“樹がはなしてくれたこと”」を熱演、会場全体がその素晴らしい演奏に酔いしれました。

また、演奏途中にはホールから見える相模湾に天候の変化で大きな「虹」がかけられ会場から一時どよめきが起こりました。奏者の小林氏と木原氏が即興で「オーバーザレインボー」を演奏してくれたことから、更に場内の拍手が鳴りやまないといった一幕もあり、思い出に残るコンサートとなりました。観覧に見えていただいた約200名の皆様はその演奏の素晴らしさや迫力に加え、自然の織り成す景色の美しさに感動した二時間でした。



皆様にお買い上げいただいたチケット代の中から、その収益金をエリザベス・サンダース・ホームへの寄付金として、事業団の山崎事務局長よりエリザベス・サンダース・ホーム峯島紀子理事長に手渡した後、峯島理事長からは来場の皆様に協力いただいたことへの謝意が丁寧に述べられ、演奏会は無事終了しました。

コンサート観覧に見えていただきました皆様、そして演奏者の皆様、聖ステパノ学園の学校職員の皆様、司会、案内等でご協力いただいたボランティア会員の皆様に厚く御礼申し上げます。

2013年 一木会例会の概要

三井V-Netのボランティア会員が集う一木会例会は2013年4月までは1、4、7、10月の第一木曜日に開催しておりましたが、2013年7月から1月：第二木曜、4月：第四木曜、7月：第一木曜、10月：第四木曜の開催に変更しました。

例会では事務局報告、各部会報告、講演を行い、終了後の親睦会では会員同士の情報交換を行い、友好を深めています。2013年の一木会例会の概要は次のとおりです。



人と人のまんなかに。

【1月例会：1月10日】 於：三井物産ビル

- ・飯尾理事長挨拶、事務局報告
- ・日赤医療センター活動報告：12名が活動中で、一か月に延べ約35名が活動。外来受付案内、アロマテラピー、車椅子の補助などを行っている。
- ・一橋大学：2012年7月に一対一交流を開始し、日本企業に就職活動する際の日本語指導などを交流している8組で実施。
- ・講演



講師：東京有明医療大学
坂井友実教授
テーマ：東洋医学からみた高齢者の健康管理

【4月例会：4月10日】 於：商船三井ビル

- ・事務局報告：2012年度末にて、奥多摩倶楽部、埼玉倶楽部、千葉倶楽部が解散した。一木会例会の開催日を会場確保の関係から、1月：第二木曜日、4、10月：第四木曜日、7月：第一木曜日に変更。三井V-Net3月理事会にて三井製糖(株)加入が承認された。
- ・千葉大部会活動報告(井出世話人)
9名の会員が留学生との一対一交流中、社会見学会、東京国立博物館「留学生の日」見学、ワークショップ：「日本の会社・企業文化」などをはじめとする各種活動を実施。

・講演



講師：(株)フォーシーズインターナショナル
代表取締役
ほっとり
神服佐知子氏
テーマ：「日本をもっと理解してもらうために」—日本の礼儀、マナーや日本的コミュニケーションをどのように留学生に伝えるか—

【7月例会：7月4日】 於：東芝ビル

- ・事務局報告：理事会報告、三井V-Net 平成25年度第18期事業計画の報告。
- ・東大柏部会活動報告(神崎世話人)
25名の会員で、留学生の一対一交流、社会見学会、生花教室、新入留学生向けバザーへの協力、例会開催状況などを実施。

・講演



講師：TAMA市民塾塾長
横田至明氏
テーマ：「Puzzl'art (パズラート)！
折りガミが作り出すパズルと芸術の融合した不思議な世界」

【10月例会：10月24日】 於：商船三井ビル

- ・事務局報告：幹事の加藤良克幹事、志儀忠輔幹事、布野剛甫幹事の3名が退任し、石渡戸氏征治氏、高山進氏、廣瀬邦彦氏、八木勝司氏の4名が新任となる。
- ・横浜国大部会活動報告(坂本世話人)
毎月開催する例会が100回を超え、29名が一対一交流を行っており、留学生数が48名にのぼる。ウエルカムウォーク、建長寺座禅会などを行っている。

・講演



講師：株式会社日本スウェーデン福祉研究所
シルヴィアホーム認定インストラクター
原智代氏
テーマ：「認知症緩和ケアの補完的手法・タクティールケア」
スウェーデンで生まれたタッチケアの手法と体験



編集責任者：山崎 俊一

三井ボランティアネットワーク事業団 (三井V-Net) 皆様もボランティア活動に参加しませんか

三井ボランティアネットワーク事業団は、三井グループ有志各社の協力を得て、1996年に設立されました。主として三井グループ企業出身のシニア層のボランティア活動を推進し、豊かで健康な生きがいを感じられるように支援を行い、以て三井グループ全体の社会貢献とすることを主たる目的としています。ボランティア活動会員登録には入会金および年会費等は不要です。ボランティア活動については保険に加入しています。

ボランティア活動会員登録票		(関東地域) 03-5570-8035 FAX (関西地域) 06-4396-8681 (中国地域) 082-222-5101	
三井ボランティアネットワーク事業団(三井V-Net) 御中 貴事業団を通じたボランティア活動への参加を申込みます。			
		記入日 20 年 月 日	
氏名	(フリガナ)	生年月日	19 年 月 日
		性別	[]男 ・ []女
住所	郵便番号 -		
自宅電話番号	-	-	
自宅FAX番号	-	-	
携帯電話番号	-	-	
E-Mail Address			
出身企業			
以下の活動についてご希望される項目に○印を入れて下さい(複数可)			
希望する ボランティア	① [] 国際交流(留学生と日本語を通じての交流・文書作成の支援等)		
	② [] 環境保全(河川敷・海岸等の掃除、水源林地域保全活動)		
	③ [] 医療(病院外来の案内・図書整理・演奏活動等)		
	④ [] 福祉(福祉施設内の草刈・掃除、福祉団体主催イベントでの手伝い等)		
	⑤ [] 文化・教育(文化施設での手伝い、アジアの児童の奨学金支援)		
会員登録の動機について該当項目に○印を入れて下さい(複数可)			
[] 出身企業の紹介	[] ホームページを見て	[] ニュースレターを見て	
[] 知人の紹介	[] その他()		

上記入手の個人情報は、個人情報保護法の方針に従って厳重に管理し、ボランティア活動に必要な範囲内に限り使用させていただきます。

三井ボランティアネットワーク事業団

本部(東京) 〒107-0052 東京都港区赤坂3-11-3 赤坂中川ビル3階
TEL:03-5570-2181 FAX:03-5570-8035

関西支部(大阪) 〒556-0011 大阪市浪速区難波中1-12-5 難波室町ビル4階
TEL:06-4396-8680 FAX:06-4396-8681

中国支部(広島) 〒730-0017 広島市中区鉄砲町6-7 槌本ビル5階
TEL:082-222-5101 FAX:082-222-5101

ホームページからも登録していただけます。 <http://www.mv-net.com/>